

# 社会科学習指導案

指導学級：2 年 2 組 3 4 名  
指導場所：2 年 2 組 教室  
指導者：教諭 二川 明信

## 1 単元名 「世界と日本の人口」

## 2 単元について

現在、世界の人口は約67億人を超え、40年後には、約90億人を超えると言われている。世界の人口は、紀元前から18世紀ごろまで徐々に増加していた。それが、産業革命以降、急速に人口が増えはじめ、第二次世界大戦後は、更に増加のスピードが進み、「人口爆発」と呼ばれるまでになった。その要因は、人間の生活が食料や住居など様々な面で安定するようになり、また医学の発達もあって死亡率が低下したからである。しかし、どの国や地域でも人口が急増しているわけではない。世界の人口増加率を見るとアフリカ・アジア・ラテンアメリカなどの発展途上国で急増しているのに対し、ヨーロッパや日本・北アメリカなどの先進国では、減少傾向にある。人口分布図を見ると不均等な地域があるのは、気候・地形・土壌・水などの自然環境や地域の生産様式などの社会環境の相違により不均等となっている。その結果、世界人口の4分の3はアジアとヨーロッパ、北アメリカに分布し、南半球の人口は約10%に過ぎない現状である。そこで、これらのことを背景に世界の人口の増加(発展途上国)地域、減少(先進国)地域や人口の推移、人口密度や国土面積などの地理的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断していく必要がある。

一方日本は、世界でも1億人を超える数少ない国の一つであり、世界一の長寿国である。これは戦後の国民生活の向上、医学の発展などの要因のほかに、犯罪が少ないなどの安心できる社会が背景にあったからである。日本の場合、人口の高齢化は、戦後の短い期間で人口構成が変化したため、政治や社会制度が高齢化に対応しきれていないことが指摘されている。また少子化も進み、大きな課題となっている。

これまでの生徒の学習状況から、6割程度(20名前後)の生徒が、世界の人口の多い国、少ない国を地球儀や世界地図を使って指し示すことができる。地球儀や地図を使っての班学習や作図などに興味・関心を持って取り組む生徒は多いが、習得までには至っていない。また、世界の人口や日本の人口の事象について読み取り、ある程度理解することはできるが、その事象の意味や意義、特色について考察し、表現したり、様々な資料から関連を見だし、考察し、表現するような説明になると極端に苦手意識をもつ生徒が多くなる。つまり、知識が断片的で社会的事象の関連についてあまり理解していないため、思考力・判断力・表現力がなかなか育たない現状である。

本単元は、世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観させることを目的としている。具体的には、世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させるとともに、国内の人口分布、山間部で人口が希薄な過疎地域・平野部への人口集中が目立つ過密地域のそれぞれの問題を取り上げ、理解させることである。

また、世界には人口の増減や移動などに伴う様々な人口問題が見られる中で、日本の場合は世界に類をみない速さで少子化、高齢化が進んだことに伴う課題に直面していることが理解できるといった程度の内容を取り扱う。

本校社会科では、様々な社会的事象を題材に、言語活動を意識することで、基礎的・基本的な知識、概念や技能の定着が深まると考える。また、課題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力が向上することで、確かな学力を生徒に身に付けさせることができると考える。

そこで、本単元の指導の手だてとして、課題解決的な学習を基盤に、生徒の興味・関心を引くような様々な人口に関する資料を提示するとともに、地球儀や地図帳を活用することを意識していきたい。その際、資料を読み取り、解釈し、説明するといった言語活動を工夫したい。また、生徒の思考をうまく導いていくために個人の習熟度に応じてヒントカードを活用したり、リードカードを工夫したりしていきたい。

### 3 単元の学習目標

- (1) 作業的な学習を通して、人口分布図や人口ピラミッドを作成することで興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 世界と日本の人口の特色をさまざまな資料を通して、多面的・多角的に考察し、公正に判断することができる。(思考・判断)
- (3) 人口に関する様々な資料を適切に収集、選択、処理、活用し、それらの資料に基づいて地球儀や地図を活用してまとめたり、発表したりすることができる。(技能・表現)
- (4) 世界と日本の人口分布には、自然環境や人々の生活環境が大きくかかわっていることを理解し、人口ピラミッドの見方や人口の変遷や未来予測、重要語句について理解することができる。(知識・理解)

### 4 単元の学習計画及び評価規準

時間	学習の内容	評価規準
1	<p>1 人口ピラミッドについて</p> <p>世界の国の人口ピラミッドを作成することで、その見方や様々な形があることを理解する。</p> <p>世界で1億人以上の国がどこなのか分布図を作成し、理解する。</p> <p>人口の偏りには、自然環境などの影響があることを理解する。</p>	<p>様々な国の人口ピラミッドや世界の人口分布図を作成することにより、人口について興味や関心が高まっている。(関心・意欲・態度)</p> <p>人口ピラミッドの特徴や見方についての知識を身に付けている。(知識・理解)</p> <p>世界の人口分布図から日本を含めた1億人以上の国が分かり、どういう地域に集まっているか、地球儀や地図帳を活用し、説明している。(技能・表現)</p> <p>気候・地形・農業の違いにより、人口の集中する地域が変化することを理解し、その知識を身に付けている。(知識・理解)</p>
2 本時	<p>2 67億人の地球のうえで (世界の人口)</p> <p>人口が増加している地域(国)や減少している地域(国)がどこなのか理解する。</p> <p>人口増加は発展途上国が主であり、減少傾向にあるのが先進国である。それぞれの違いについていくつかの国を参考に考察する。</p>	<p>人口が増加している地域(国)や減少している地域(国)がどこなのか理解し、その知識を身に付けている(知識・理解)</p> <p>人口増加における先進国と発展途上国の違いについてその背景を考察している。(思考・判断)</p> <p>人口集中の原因や発展途上国や先進国の地域を地球儀や地図を活用しながら、説明している。(技能・表現)</p>
3	<p>3 長寿の社会のなかで (日本の人口)</p> <p>日本の人口には、平野部と山間部に偏りがあり、太平洋ベルトに人口が密集していることを理解する。</p> <p>これまでの日本の人口ピラミッドの推移と現状を理解する。</p> <p>日本は長寿世界一であり、急速に少子化、高齢化が進んだ要因からどのような課題があるか理解する。</p>	<p>日本の人口密度は、不均等な分布であり、人口密集主要都市の位置や平均寿命が他国と比べても長いことを理解し、その知識を身に付けている。(知識・理解)</p> <p>日本の人口の変化を人口ピラミッドを通して理解し、現在の日本の現状を身に付けている。(知識・理解)</p> <p>日本が急激に少子化・高齢化になった原因から、どういう課題に直面しているか考察している。(思考・判断)</p>
4	<p>4 住みやすい都市のために (過密地域)</p> <p>日本の平野部では、過密化が進み、その結果どのような問題が起こっているか理解する。</p> <p>過密化の具体的な都市である大阪市を例に地図で確認しながら、都市の発達と問題を理解する。</p> <p>大都市で発生するドーナツ化現象を理解し、再開発と新たなまちづくりについて理解する。</p>	<p>日本の人口密度の分布を通して、平野部に密集している要因とそれに伴う問題点を考察している。(思考・判断)</p> <p>地図帳で大阪市のターミナル駅やニュータウン・衛星都市などの位置を書き込みをしている。(技能・表現)</p> <p>人の流れを通してドーナツ化現象を理解し、再開発が進んでいることを理解し、その知識を身に付けている。(知識・理解)</p>
5	<p>5 地域の魅力をつくる (過疎地域)</p> <p>日本の山間部では、過疎化が進み、その結果どのような問題が起こっているか理解する。</p> <p>新潟県を例に自然や文化を見直し、新しい魅力を見だし、それを地域おこしとして取り組む実態を理解する。</p>	<p>ほとんどの過疎地域が、山間部に集中している要因と現状を過密地域の要因と結び付けながら理解し、その知識を身に付けている。(知識・理解)</p> <p>過疎地域の活性化の取り組みについて、考察し、自分の意見を述べている。(思考・判断)</p>

## 5 本時の実際 ( 2 / 5 )

### (1) 題材名

「67億人の地球のうえで」

### (2) 学習目標

ア 人口が増加している地域(国)や減少している地域(国)がどこなのか指摘することができる。

(知識・理解)

イ 人口増加における先進国と発展途上国の違いについて、その背景を説明することができる。

(思考・判断)

ウ 人口集中の原因や発展途上国や先進国の地域を地球儀や地図を活用しながら、説明することができる。(技能・表現)

### (3) 授業設計の視点

ア 基礎的・基本的な知識・概念や技能を活用し、社会的な見方や考え方を養う学習活動

・リードカードの工夫

本時の授業では、世界の人口の変化と予測のグラフ、世界の人口増加率の分布図や出生率と死亡率の関係表、主な国の人口密度、その主な国の国土面積など様々な人口に関する資料から、事実(情報)を読み取らせ、その意味や意義、特色を表現させることで、言語活動における読み取りや解釈について深めていきたい。

また、世界の人口増加率の分布図と出生率と死亡率の関係表の二つの資料の関連や主な国の人口密度とその主な国の国土面積の二つの関連からそれぞれの事象間の関連を考察させ、表現させる活動を行わせることで、言語活動における説明を深めていきたい。

以上の取組を進める中で、生徒の思考をうまく導いていくために、リードカードを使用したい。その際、資料や内容のどこに着目して書けばいいのか、支援しながらその視点を明確にできるようなヒントカードを提示していきたい。また、リードカードを使用することで、社会的事象の理解が更に深まり、より基礎的・基本的な知識、概念や技能への定着へつながっていくものとして、取り組んでいきたい。

イ 習得すべき基礎的・基本的な内容の明確化と、それを生かした授業展開の工夫

・既習の内容を生かした発問の工夫

本時においては、導入で二枚の写真の比較や北半球(先進国)と南半球(発展途上国)について、既習内容である「世界の気候帯」について触れていきたい。次に、「人口増加率を示した世界地図」と既習内容である「1億人以上の人口の分布図」を比較させることで、必ずしも現在人口が多い国で人口が増えているわけではないことに気付かせていきたい。最後に、既習内容である「人口ピラミッドの変遷」から多産多死の富士山型から少産少死のつぼ型へ変化していくことが、発展途上国や先進国にも当てはまることを理解させたい。

以上の取組を行うことで、既習内容を生かすことができたという喜びから学習意欲の向上につなげていきたい。

・身近な教材の提示

本時の授業では、人口増加率が高い発展途上国と人口増加率の低い先進国の双方を多面的・多角的にとらえさせるために、新聞に掲載された身近な記事や資料を使って、その意味や意義、特色について考察させ、表現させる活動を行わせたい。またこれらの活動を通して、生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上につなげていきたい。

(4) 授業の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点と評価( は評価項目)
<p>10分 導 入 3分</p>	<p>1 世界の人口の歴史と今後について知り,将来の地球について考察する。</p> <div data-bbox="304 389 762 656" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1950年 約25億人(人口爆発) 1990年 約50億人 2050年 約90億人超 【人口の急増】 ・ 1回目:産業革命後 ・ 2回目:第二次世界大戦後 【問題点】・食料問題・環境問題他</p> </div> <p>2 二枚の写真を比較する。</p> <div data-bbox="304 734 762 808" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・人口密集地帯の人々の様子 ・広大な草原のまばらな人の様子</p> </div> <p>3 学習課題を考える。</p> <div data-bbox="368 902 1302 981" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>なぜ地域によって人口増加に違いがあるのだろう。</p> </div>	<p>1 世界の人口の歴史的变化と40年後の人口を理解させることで,将来の世界(日本)に興味・関心をもたせる。教科書中心に深入りしないよう進める。 世界人口時計を利用して数字が刻々と増えていることを実感させ,興味・関心をもたせる。 世界の人口が増えることで,どのような問題が起きそうか考えさせ,危機感をもたせる。</p> <p>2 二枚の写真からなぜ人口が集中している地域とそうでない地域に分かれるのか,疑問をもたせる。</p> <p>3 分布の違いからその原因を知ろうとする意欲をもたせるような発問の工夫をする。</p>
<p>6分 展 開 5分</p>	<p>4 人口が増加している地域(国)と減少している地域(国)を確認する。</p> <div data-bbox="304 1133 762 1400" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【人口が増加している地域(国)】 アフリカ・アジア(インド・インドネシア)・ラテンアメリカなど 【人口が減少している地域(国)】 日本・ヨーロッパ・アメリカ・ロシア連邦など</p> </div> <p>5 人口増加率を示した世界地図から高い地域(国)と低い地域(国)を調べる。</p> <div data-bbox="304 1671 762 1854" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・人口増加率の高い地域(国) 発展途上国(出生率&gt;死亡率) ・人口増加率の低い地域(国) 先進国(出生率&lt;死亡率)</p> </div>	<p>4 世界の人口増加地域(国)と人口減少地域(国)がどこかを地球儀や地図を活用して,しっかり確認させる。特に増加率3%以上の国を理解させる。 既習した人口1億人以上の国の分布と比較させることで,意欲付けにつなげていく。</p> <div data-bbox="794 1234 1425 1400" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>-----視点 イ----- 習得すべき基礎的・基本的な内容の明確化と,それを生かした授業展開の工夫 ・既習の内容を生かした発問の工夫</p> </div> <p>人口が増加している地域(国)や減少している地域(国)がどこなのか指摘することができたか。(知識・理解)</p> <p>5 教科書の出生率と死亡率の関係から人口増加地域(国)を発展途上国といい,人口減少地域(国)を先進国ということを導き出させる。</p> <div data-bbox="794 1693 1425 1854" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>-----視点 ア----- 基礎的・基本的な知識・概念や技能を活用し,社会的な見方や考え方を養う学習活動 ・リードカードの工夫</p> </div>

展 開	10分	<p>6 いくつかの発展途上国と先進国の現状と課題を知り考察する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発展途上国：南半球</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貧困地域(国)が多い。</li> <li>・ 子供も労働力</li> <li>・ 医学の発達や衛生面の改善</li> <li>・ 多産多死 多産少死</li> </ul> <p>先進国：北半球</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業が発達し、豊かな国が多い。</li> <li>・ 少産少死傾向 平均寿命が伸びる 高齢社会</li> </ul> </div>	<p>6 発展途上国と先進国の特色をまず、教科書で読み取らせ、次に新聞記事や資料を通して多面的・多角的に考察させ、説明させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">視点ア・イ</p> <p>基礎的・基本的な知識・概念や技能を活用し、社会的な見方や考え方を養う学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リードカードの工夫</li> </ul> <p>習得すべき基礎的・基本的な内容の明確化と、それを生かした授業展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な教材の提示</li> </ul> </div> <p>人口増加における先進国と発展途上国のちがいについてその背景を説明することができたか。(思考・判断)</p>
	10分	<p>7 本時の内容についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先進国では、少産少死の傾向が進み、平均寿命が延び、高齢社会となっている国が多い。福祉や年金問題や子供を増やす取り組みなどがある。</li> <li>・ 発展途上国では、医療や衛生面の改善が多産少死を引き起こし、人口爆発となった。人口を抑制するための取組や貧困からの脱却が求められている。</li> </ul> </div>	<p>7 これまでの授業を通して理解したことを自分の言葉でまとめさせ、地球儀や地図などを活用させながら発表させる。</p> <p>生徒の発表だけで終わらず、教師側で必ず補足をすることで不備な点を補わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口爆発地域 発展途上国(南半球)と特色</li> <li>・ 人口減少・停滞地域 先進国(北半球)と特色</li> </ul> <p>人口集中の原因や発展途上国や先進国の地域を地球儀や地図を活用しながら、説明することができたか。(技能・表現)</p>
終 末	<p>8 自己評価を行う。</p> <p>9 新聞記事を通して、日本の人口について考察する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【日本の人口】</p> <p>「80歳以上800万人突破」</p> <p>「2055年65歳以上40%超」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平均寿命が高く、世界一である。</li> <li>・ 群を抜く高齢国になる。</li> </ul> </div>	<p>8 本時を振り返らせながら、机間指導を行い、自己評価カードに記入させる。</p> <p>9 新聞記事を活用して日本の高齢化について興味を持たせ、日本の人口がどうなっていくのか予想させ、次時につなげる。また、身近な地域である約60万人都市鹿児島市の現状について触れることで、より興味・関心をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出生：1日15.8人</li> <li>・ 死亡：1日14.1人</li> </ul>	